

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : アジ化ナトリウム

製 品 名 : アンフェタミン クラス アッセイ

品 目 コード : 3C019UL

シーメンスコード : 10445253

会 社 名 : シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

住 所 : 東京都品川区大崎 1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー

電話番号(緊急連絡電話番号) : 03-3493-8400 カスタマーケアセンター

作 成 日 : 2016/06/01

版 番 号 : 6

2. 危険有害性の要約

GHS 分類	: Reagent A	水生環境有害性(急性) - 区分3 水生環境有害性(長期間) - 区分3
	Reagent B	急性毒性(経口) - 区分4 急性毒性(皮膚) - 区分4 皮膚刺激性 - 区分2 眼刺激性 - 区分2A 特定標的臓器毒性(単回ばく露) - 区分2 特定標的臓器毒性(反復ばく露)(腎臓血管系、中枢神経系(CNS)及び肺) - 区分2 水生環境有害性(急性) - 区分3 水生環境有害性(長期間) - 区分3
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	水生環境有害性(急性) - 区分3 水生環境有害性(長期間) - 区分3

GHS ラベル要素

注意喚起語	: Reagent A	注意喚起語なし
	Reagent B	警告
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	注意喚起語なし

絵表示又はシンボル



危険有害性情報	: Reagent A	長期継続的影響によって水生生物に有害。 飲み込んだり、皮膚に接触すると有害。 強い眼刺激。 皮膚刺激。 臓器の障害のおそれ。 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器
	Reagent B	

注意書き

	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	の障害のおそれ。(腎臓血管系、中枢神経系 (CNS)、肺) 長期継続的影響によって水生生物に有害。 長期継続的影響によって水生生物に有害。
安全対策	: Reagent A Reagent B	環境への放出を避けること。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。環境への放出を避けること。粉塵を吸入しないこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	環境への放出を避けること。
応急措置	: Reagent A Reagent B	該当せず 気分が悪い時は、医師の手当てを受けること。ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。口をすすぐこと。皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。皮膚刺激が生じた場合：医師の手当てを受けること。眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の手当てを受けること。
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	該当せず
保管	: 毒物及び劇物取締法の規制に従い、施錠して保管すること。	
廃棄	: 内容物及び容器を地方自治体及び国の規制に従って廃棄すること。	

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名	濃度又は濃度範囲 (%)	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法)	労働安全衛生法
アンフェタミン クラス アッセイ Reagent A アジ化ナトリウム	<1.0	26628-22-8	(1)-482	データなし
アンフェタミン クラス アッセイ Reagent B アジ化ナトリウム	≤2.2	26628-22-8	(1)-482	データなし
アンフェタミン クラス アッセイ Emit Drug Assay Buffer Concentrate アジ化ナトリウム	<1.0	26628-22-8	(1)-482	データなし

職業性暴露限界がある場合、セクション8に記載されています。

4. 応急措置

必要な応急処置の説明

眼に入った場合	: Reagent A	すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも10分間洗い流し続ける。炎症が生じた場合、医師の診察を受ける。
	Reagent B	すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも10分間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも10分間洗い流し続ける。炎症が生じた場合、医師の診察を受ける。
吸入した場合	: Reagent A	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸

あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。健康上有害な影響が持続又は重篤な場合には医師の診断を受ける。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある。暴露された人を48時間医師の観察下に置く必要がある。

Reagent B

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。暴露後又は気分が悪いときは医師の手当てを受けること。必要に応じて医師に連絡する。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある。暴露された人を48時間医師の観察下に置く必要がある。

Emit Drug Assay
Buffer Concentrate

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。健康上有害な影響が持続又は重篤な場合には医師の診断を受ける。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある。暴露された人を48時間医師の観察下に置く必要がある。

皮膚に付着した場合	: Reagent A	多量の水で、汚染された皮膚を洗浄する。染された衣服及び靴を脱がせる。症状が現れたら、医師の診断を受ける。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。
	Reagent B	多量の水と石鹼で洗うこと。汚染された衣服及び靴を脱がせる。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、又は手袋を着用する。少なくとも10分間洗い流し続ける。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	多量の水で、汚染された皮膚を洗浄する。汚染された衣服及び靴を脱がせる。症状が現れたら、医師の診断を受ける。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。
飲み込んだ場合	: Reagent A	水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。健康上有害な影響が持続又は重篤な場合には医師の診断を受ける。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。
	Reagent B	水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。医師の診断を受ける。必要に応じて

医師に連絡する。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

Emit Drug Assay
Buffer Concentrate

水で口を洗淨する。入歯をしている場合ははずす。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。健康上有害な影響が持続又は重篤な場合には医師の診断を受ける。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候状態 起こりうる急性毒性

眼に入った場合

: Reagent A 重大な作用や危険有害性は知られていない。
Reagent B 強い眼刺激。

Emit Drug Assay 重大な作用や危険有害性は知られていない。
Buffer Concentrate

吸入した場合

: Reagent A 重大な作用や危険有害性は知られていない。
Reagent B 重大な作用や危険有害性は知られていない。

Emit Drug Assay 重大な作用や危険有害性は知られていない。
Buffer Concentrate

皮膚に付着した場合

: Reagent A 重大な作用や危険有害性は知られていない。
Reagent B 皮膚に接触すると有害。皮膚刺激。

Emit Drug Assay 重大な作用や危険有害性は知られていない。
Buffer Concentrate

飲み込んだ場合

: Reagent A 重大な作用や危険有害性は知られていない。
Reagent B 飲み込むと有害。

Emit Drug Assay 重大な作用や危険有害性は知られていない。
Buffer Concentrate

短期暴露

潜在的な遅発性作用 : データなし

過剰暴露の徴候/症状

眼に入った場合	: Reagent A	特にデータは無い。
	Reagent B	有害症状には以下の症状が含まれる: 痛み及び刺激 流涙 発赤
	Emit Drug Assay	特にデータは無い。
	Buffer Concentrate	
皮膚に付着した場合	: Reagent A	特にデータは無い。
	Reagent B	有害症状には以下の症状が含まれる: 刺激 発赤
	Emit Drug Assay	特にデータは無い。
	Buffer Concentrate	
飲み込んだ場合	: Reagent A	特にデータは無い。
	Reagent B	特にデータは無い。
	Emit Drug Assay	特にデータは無い。
	Buffer Concentrate	

必要に応じた速やかな医師の手当てと必要とされる特別な処置の指示

応急措置をする者の保護	: Reagent A	人的リスクを伴うような行動、又は適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。
	Reagent B	人的リスクを伴うような行動、又は適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、又は手袋を着用する。
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	人的リスクを伴うような行動、又は適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。
医師に対する特別な注意事項		火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある。暴露された人を48時間医師の観察下に置く必要がある。
特定の治療法	: 特定の治療法はない。	

健康への影響と症状の詳細については、セクション11を参照ください。

5. 火災時の措置

消火剤

消火剤 : 火災に応じた消火剤を使用する。

使ってはならない消火剤 : 認知済みのものは無し。

火災時の措置に関する特有の危険有害性 : 火災の際や加熱された場合、圧力の上昇が起こり容器が破裂することがある。本製品は水生生物に対して有害であり、長期にわたり持続する影響を有する。本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、又は排水管に放出してはならない。

有害な熱分解生成物 : 分解生成物には以下の物質が含まれることがある：
 二酸化炭素
 一酸化炭素
 窒素酸化物
 硫酸化物類
 リン酸化物
 ハロゲン化合物
 金属酸化物

消防士用の特別な防具と予防措置 : 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、又は適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。

消火を行う者の保護 : 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

緊急時要員以外の人員用 : 人的リスクを伴うような行動、又は適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。蒸気や噴霧の吸入を避ける。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。適切な個人保護装置を着用する。

緊急時の責任者用 : 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切な素材についてセクション8に記載の情報に注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。

環境に対する注意事項 : 漏出した物質や流去水の拡散、及び土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌又は大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。水質汚染物質である。

大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 少量流出** : 危険性がなければ、漏れを止める。漏出区域から容器を移動する。水溶性なら水で希釈してぬぐい取る。あるいは、又は水に不溶性の場合、乾燥した不活性吸収剤に吸着させ、適切な廃棄物処理容器に入れる。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。
- 大量流出** 危険性がなければ、漏れを止める。漏出区域から容器を移動する。放出現場には風上から近づくこと。下水溝、水路、地下室又は密閉された場所への侵入を防止する。漏出物を廃水処理施設に洗い流すか、又は以下の指示に従う。本製品がこぼれたら、砂、土、パーミキュラト、珪藻土等の非可燃性の吸収剤でこぼれを封じ込めた後、容器に集め、現地法に基づき廃棄する(セクション13を参照)。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。漏出物を吸い取った吸収剤は、漏出した製品と同じ危険性を引き起こすことがある。注意:緊急時の連絡先についてはセクション1を、廃棄処理はセクション13を参照してください。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全に取扱うための注意事項

- 保護措置** : 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。眼、皮膚及び衣類に触れないようにする。蒸気やミストを呼吸しない。摂取してはならない。環境への放出を避けること。当物質の通常取り扱い中に呼吸器官への有害危険性が存在する場合は、必ず適切な換気装置を使用するか、あるいは適切な呼吸用保護具を着用する。使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。容器が空でも製品の残留物が残存していて有害危険性がある。容器を再利用してはならない。
- 一般的な職業衛生に関する助言** : 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食及び喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。同様にセクション 8 の衛生措置に関する追加情報も参照。
- 安全に保管するための注意事項** : 現地の法規制に従って保管する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)及び飲食物から離して保管する。施錠して保管すること。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度** : 未設定

許容濃度 (暴露限界値、生物学的暴露指標)

- 日本産衛学会** : 未設定 (2009 年版)
ACGIH : STEL (C) 0.29ppm (アジ化ナトリウムとして) STEL (C) 0.11ppm (アジ化水素酸蒸気として) (2009 年版)

設備対策 : ユーザーの作業により粉塵、ヒューム、ガス、蒸気又はミストが発生する場合は、作業行程の囲い込み、局所的排気通風装置あるいはその他の技術的制御により、作業者の空中に浮遊している汚染物質への暴露を全ての推奨値あるいは法定限度以下に保つこと。

環境暴露管理 : 換気装置及び作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。場合によっては排出物を許容レベル以下に下げのために煙霧清浄機やフィルター、あるいは工程装置の技術的改良が必要になることもある。

保護具

衛生対策 : 化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙、及びトイレの使用前、さらに作業時間の最後に、両手、両腕の肘から手首までの部分、また顔を十分に洗う。汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。作業場の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。

呼吸用保護具 : 危険性と暴露の可能性に基づき、適切な基準又は認証を満たすマスクを選択すること。マスクは、呼吸保護プログラムに従って使用し、適切な付け心地、トレーニング、及び使用上のその他の側面を確実にすること。

手の保護具 : リスク評価によって必要とされる場合は、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。いくつかの物質から成る混合物の場合には、手袋の保護時間を正確に推定することはできない。

眼の保護具 : リスク評価によって必要とされる場合は、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない: 耐化学物質飛沫よけゴーグル。

皮膚及び身体の保護具 : 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容及び関連するリスクに基づいて選択しなければならず、さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。

その他の皮膚の保護具 : この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物及び何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可

を受けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的性質	: Reagent A	固体[粉末]
	Reagent B	固体[粉末]
	Emit Drug Assay	液体
	Buffer Concentrate	
色	: Reagent A	黄褐色[淡い]
	Reagent B	黄褐色[淡い]
	Emit Drug Assay	透明。無色。
	Buffer Concentrate	
臭い	Reagent A	無臭
	Reagent B	無臭
	Emit Drug Assay	データなし
	Buffer Concentrate	
臭いのしきい(閾値)	Reagent A	データなし
	Reagent B	データなし
	Emit Drug Assay	データなし
	Buffer Concentrate	
pH	: Reagent A	該当せず
	Reagent B	該当せず
	Emit Drug Assay	8 [濃度 (% w/w): 1%]
	Buffer Concentrate	
融点・凝固点	: Reagent A	データなし
	Reagent B	データなし
	Emit Drug Assay	データなし
	Buffer Concentrate	
沸点・初留点及び沸騰範囲	: Reagent A	データなし
	Reagent B	データなし
	Emit Drug Assay	データなし
	Buffer Concentrate	
引火点	Reagent A	製品は燃焼が持続しない。
	Reagent B	製品は燃焼が持続しない。
	Emit Drug Assay	製品は燃焼が持続しない。
	Buffer Concentrate	
燃焼点	: Reagent A	データなし
	Reagent B	データなし
	Emit Drug Assay	データなし
	Buffer Concentrate	
蒸発速度	: Reagent A	データなし
	Reagent B	データなし
	Emit Drug Assay	データなし

燃焼性(固体、気体)	:	Buffer Concentrate	
		Reagent A	次の物質及び条件の存在下で引火性ではない: 裸火、火花、及び放電、熱ショック及び機械的衝撃、酸化性物質、還元性物質、可燃性物質、及び有機物質。
		Reagent B	次の物質及び条件の存在下で引火性ではない: 裸火、火花、及び放電、熱ショック及び機械的衝撃、酸化性物質、還元性物質、可燃性物質、及び有機物質。
燃焼又は爆発範囲の 上限及び下限	:	Emit Drug Assay	次の物質及び条件の存在下で引火性ではない: 裸火、火花、及び放電、熱ショック及び機械的衝撃、酸化性物質、還元性物質、可燃性物質、及び有機物質。
		Buffer Concentrate	次の物質及び条件の存在下で引火性ではない: 裸火、火花、及び放電、熱ショック及び機械的衝撃、酸化性物質、還元性物質、可燃性物質、及び有機物質。
		Reagent A	データなし
		Reagent B	データなし
蒸気圧	:	Emit Drug Assay	データなし
		Buffer Concentrate	データなし
		Reagent A	データなし
		Reagent B	データなし
蒸気密度	:	Emit Drug Assay	データなし
		Buffer Concentrate	データなし
		Reagent A	データなし
		Reagent B	データなし
比重(相対密度)	:	Emit Drug Assay	データなし
		Buffer Concentrate	データなし
		Reagent A	データなし
		Reagent B	データなし
溶解度	:	Emit Drug Assay	以下の物質に容易に溶解する: 冷水及び温水。
		Buffer Concentrate	以下の物質に容易に溶解する: 冷水及び温水。
		Reagent A	以下の物質に容易に溶解する: 冷水。
水への溶解度	:	Emit Drug Assay	データなし
		Buffer Concentrate	データなし
		Reagent A	データなし
		Reagent B	データなし
n-オクタノール／水分 配係数	:	Emit Drug Assay	データなし
		Buffer Concentrate	データなし
		Reagent A	データなし
		Reagent B	データなし
自然発火温度	:	Emit Drug Assay	データなし
		Buffer Concentrate	データなし
		Reagent A	データなし

	Reagent B	データなし
	Emit Drug Assay	データなし
	Buffer Concentrate	
SADT	: Reagent A	データなし
	Reagent B	データなし
	Emit Drug Assay	データなし
	Buffer Concentrate	
分解温度	: Reagent A	データなし
	Reagent B	データなし
	Emit Drug Assay	データなし
	Buffer Concentrate	
粘度	: Reagent A	データなし
	Reagent B	データなし
	Emit Drug Assay	データなし
	Buffer Concentrate	
燃焼時間	Reagent A	データなし
	Reagent B	データなし
	Emit Drug Assay	該当せず
	Buffer Concentrate	
燃焼速度	Reagent A	データなし
	Reagent B	データなし
	Emit Drug Assay	該当せず
	Buffer Concentrate	

10. 安定性及び反応性

- 反応性** : この製品又はその成分に関しては、反応性に関する利用可能な具体的試験データはない。
- 化学的安定性** : 製品は安定である。
- 危険有害反応可能性** : 通常の貯蔵及び使用条件下で、有害な反応は起こらない。
- 避けるべき条件** : 特にデータは無い
- 混触危険物質** : 特にデータは無い
- 危険有害な分解生成物** : 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
Emit® d.a.u.™ Amphetamine Class Assay, Reagent A アジ化ナトリウム	LD50 経皮 LD50 経皮 LD50 経口	ウサギ ラット ラット	20 mg/kg 50 mg/kg 27 mg/kg	- - -
Emit® d.a.u.™ Amphetamine Class Assay, Reagent B アジ化ナトリウム	LD50 経皮 LD50 経皮 LD50 経口	ウサギ ラット ラット	20 mg/kg 50 mg/kg 27 mg/kg	- - -
Emit® Drug Assay Buffer Concentrate アジ化ナトリウム	LD50 経皮 LD50 経皮 LD50 経口	ウサギ ラット ラット	20 mg/kg 50 mg/kg 27 mg/kg	- - -

結論/要約 : データなし

刺激性/腐食性

データなし

結論/要約

皮膚 : データなし
眼 : データなし
呼吸器系 : データなし

呼吸器感作性又は皮膚感作性

データなし

結論/要約

皮膚 : データなし
呼吸器系 : データなし

生殖細胞変異原性

データなし

結論/要約 : データなし

発がん性

データなし

結論/要約 : データなし

生殖毒性

データなし

結論/要約 : データなし

催奇形性

データなし

特定標的臓器毒性(単回暴露)

名称	カテゴリ	暴露経路	標的器官
Emit® d.a.u.™ Amphetamine Class Assay, Reagent A アジ化ナトリウム	区分1	未確定	未確定
Emit® d.a.u.™ Amphetamine Class Assay, Reagent B アジ化ナトリウム	区分1	未確定	未確定
Emit® Drug Assay Buffer Concentrate アジ化ナトリウム	区分1	未確定	未確定

特定標的臓器毒性(反復暴露)

名称	カテゴリ	暴露経路	標的器官
Emit® d.a.u.™ Amphetamine Class Assay, Reagent A アジ化ナトリウム	区分1	未確定	腎臓血管系 および 中枢神経系 (CNS) 肺
	区分2	未確定	
Emit® d.a.u.™ Amphetamine Class Assay, Reagent B アジ化ナトリウム	区分1	未確定	腎臓血管系 および 中枢神経系 (CNS) 肺
	区分2	未確定	
Emit® Drug Assay Buffer Concentrate アジ化ナトリウム	区分1	未確定	腎臓血管系 および 中枢神経系 (CNS) 肺
	区分2	未確定	

吸引性呼吸器有害性

データなし

可能性のある暴露経路 :
についての情報

起こりうる急性毒性

眼に入った場合	: Reagent A	重大な作用や危険有害性は知られていない。
	Reagent B	強い眼刺激。
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	重大な作用や危険有害性は知られていない。
吸入した場合	: Reagent A	重大な作用や危険有害性は知られていない。
	Reagent B	重大な作用や危険有害性は知られていない。
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	重大な作用や危険有害性は知られていない。

皮膚に付着した場合	: Reagent A	重大な作用や危険有害性は知られていない。
	Reagent B	皮膚に接触すると有害。皮膚刺激。
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	重大な作用や危険有害性は知られていない。
	飲み込んだ場合	: Reagent A
Reagent B		飲み込むと有害。
Emit Drug Assay Buffer Concentrate		重大な作用や危険有害性は知られていない。

物理的・化学的及び毒物学的な特性に関連する症状

眼に入った場合	: Reagent A	特にデータは無い。
	Reagent B	有害症状には以下の症状が含まれる: 痛み及び刺激 流涙 発赤
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	特にデータは無い。
	皮膚に付着した場合	: Reagent A
Reagent B		有害症状には以下の症状が含まれる: 刺激 発赤
Emit Drug Assay Buffer Concentrate		特にデータは無い。
飲み込んだ場合		: Reagent A
	Reagent B	特にデータは無い。
	Emit Drug Assay Buffer Concentrate	特にデータは無い。

遅発性及び即時性の影響ならびに短期及び長期の暴露による慢性的な影響

短期暴露

潜在的な即時性作用	: データなし
潜在的な遅発性作用	: データなし

長期暴露

潜在的な即時性作用	: データなし
潜在的な遅発性作用	: データなし

健康への慢性効果の可能性

データなし

結論/要約	: データなし
-------	---------

概要 発がん性 変異原性 催奇形性 発育への影響 生殖能力に対する影響	: Reagent A Reagent B Emit Drug Assay Buffer Concentrate : 重大な作用や危険有害性は知られていない。 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。	重大な作用や危険有害性は知られていない。 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。 重大な作用や危険有害性は知られていない。
--	---	---

毒性の数値化

急性毒性の推定

経路	急性毒性推定値 (ATE値)
Emit® d.a.u.™ Amphetamine Class Assay, Reagent B	
経口	1664.2 mg/kg
経皮	1346.9 mg/kg
Emit® Drug Assay Buffer Concentrate	
経口	40000 mg/kg

相互作用	: データなし
その他の情報	: データなし

12. 環境影響情報

生殖毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	暴露時間
Emit® d.a.u.™ Amphetamine Class Assay, Reagent A			
アジ化ナトリウム	急性 EC50 0.348 mg/l 真水 急性 EC50 4.2 から 6.2 mg/l 真水 急性 LC50 9000 µg/l 真水 急性 LC50 0.68 mg/l 真水 慢性 NOEC 5600 µg/l 海水	藻類 - Pseudokirchneriella subcapitata ミジンコ類 - Daphnia pulex - 幼虫 甲殻類 - Gammarus lacustris 魚類 - Lepomis macrochirus 藻類 - Macrocyctis pyrifera	96 時間 48 時間 48 時間 96 時間 96 時間
Emit® d.a.u.™ Amphetamine Class Assay, Reagent B			
アジ化ナトリウム	急性 EC50 0.348 mg/l 真水 急性 EC50 4.2 から 6.2 mg/l 真水 急性 LC50 9000 µg/l 真水 急性 LC50 0.68 mg/l 真水 慢性 NOEC 5600 µg/l 海水	藻類 - Pseudokirchneriella subcapitata ミジンコ類 - Daphnia pulex - 幼虫 甲殻類 - Gammarus lacustris 魚類 - Lepomis macrochirus 藻類 - Macrocyctis pyrifera	96 時間 48 時間 48 時間 96 時間 96 時間
Emit® Drug Assay Buffer Concentrate			
アジ化ナトリウム	急性 EC50 0.348 mg/l 真水 急性 EC50 4.2 から 6.2 mg/l 真水 急性 LC50 9000 µg/l 真水 急性 LC50 0.68 mg/l 真水 慢性 NOEC 5600 µg/l 海水	藻類 - Pseudokirchneriella subcapitata ミジンコ類 - Daphnia pulex - 幼虫 甲殻類 - Gammarus lacustris 魚類 - Lepomis macrochirus 藻類 - Macrocyctis pyrifera	96 時間 48 時間 48 時間 96 時間 96 時間

結論/要約 : データなし

残留性・分解性

結論/要約 : データなし

生体蓄積性

データなし

土壤中の移動性

土壌/水分配係(Koc) : データなし
 移動性 : データなし
 オゾン層への有害性 : 該当せず。
 他の有害影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

UN

国連番号 : 規定なし
品名(国連輸送名) : —
国連分類(輸送における危険有害性クラス) : —
容器等級 : —
環境有害性 : 該当せず
追加情報 : —

IATA

国連番号 : Not regulated.
品名(国連輸送名) : —
国連分類(輸送における危険有害性クラス) : —
容器等級 : —

環境有害性
追加情報

No.
—

IMDG

国連番号

Not regulated.

品名(国連輸送名)
国連分類(輸送にお
ける危険有害性クラ
ス)

—
—

容器等級
環境有害性
追加情報
使用者のための特
別な予防措置

—
No.
—
使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送す
る。本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していること
を確認する。

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	該当: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、 施行令第1条別表第1)
労働安全衛生法 [名称等を通知すべき危険物及び有害物]	該当
労働安全衛生法 [名称等を表示すべき危険物及び有害物]	該当
毒物及び劇物取締法	該当: 毒物(指定令第1条)

16. その他の情報

参考文献

「厚生労働省 職場の安全サイト GHS対応」

・JIS Z 7253:2012、JIS Z 7252:2014

記載内容は現時点で入手できる情報、データに基づいて作成しております。ただし、記載されてい
る情報の正確さ、完全性については保証するものではありません。

全ての物質は未知の危険有害性を含んでいる可能性があるため、取り扱いには細心の注意が必要
です。このSDSには特定の危険有害性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険有
害性であることが保証されているものではありません。

また、記載内容は通常の手続きを前提としたものであり、指定されていない方法で使用した場合
や、指定されていない物質と混合して使用した場合は、有効ではありません。